

## I 実践

### 1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

#### (1) 主題設定の理由

本校は複式学級のある全校生徒29名の小規模校である。小規模特認校制度により市内全域から通学者があり、スクールバスを利用している児童も多い。特長としては、中学校教員による授業（音楽、図画工作、体育及び高学年理科、社会）など、小中一貫教育の取組みが挙げられる。また、本校独自教科「コミュニケーション科（英語・ことば）」を設置し、様々な表現活動の中で一人一人の活躍の場を多くしていることも特長の一つとなっている。一方、学校生活上の課題としては、少人数による人間関係の難しさや転入児童との新たな人間関係づくりの難しさを感じられた。

そこで、異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることにより、お互いを知り、相手を思いやる心を育てたいと考え、本研究主題を設定した。

#### (2) 研究の内容

ア 日立特別支援学校との交流学习（1・2年生）

イ なかよしフォーラムの実施（人権集会）

ウ 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）

### 2 実践内容

#### (1) 日立特別支援学校との交流学习

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、昨年同様対面で行う交流学习は中止となった。しかし、コロナ禍でもできる交流学习として、日立特別支援学校の児童から、メッセージビデオと手作りのカレンダーのプレゼントがあった。メッセージビデオを見た児童は、音楽に合わせて一緒に踊ったり、歌ったりしながら楽しんだ。そこで「わたしたちもお返事をしたい」と、どんな物だったら喜んでもらえるかを考え、中里の良いところを紹介したビデオや折り紙、メッセージカードを作って、プレゼントするのを楽しみにしている。なかなか他の学校の児童と交流する機会がもてない中、相手のことを考える貴重な経験になった。

#### (2) なかよしフォーラム（人権集会）の実施

本校では自他を尊重する意識を育み、仲良く学校生活を送れるようにするため、例年「なかよしフォーラム」を実施している。昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止したが、今年度は感染予防を徹底して行うことができた。6年生が計画進行し、全校児童で楽しく遊ぶ中で、学年を越えて関係を深めることができた。

その後、友達にしてもらって嬉しかったことを書いて持参した葉や花の形のカードを、ありがとうの木に貼っていった。ありがとうの木は人権コーナーに掲示し、月に1～2回友達にしてもらって嬉しかったことを書いて掲示する活動を継続している。木の葉っぱや花がいっぱいになっていくのを見て、児童からは、「みんなの思いやりがいっぱいだね」との声も聞こえてきた。どんな事をすると友達は喜んでくれるのかを考えたり、してもらったことを思い出したりする良いきっかけとなった。

また、あえて書いた人や相手の名前も書かないことで、消極的な児童も書きやすく、自分宛ての枚数などを気にする児童もいなかったのが良かったと感じた。



なかよしフォーラムの様子



3学期始めのありがとうの木

### (3) 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）

#### ア 異学年との交流（縦割り班活動）

本校は、学年や兄弟、その他人間関係を考慮して4つの班に分けた縦割り班活動を行っている。清掃では、昼休みが終わると、高学年の児童が低学年の児童を教室に迎えに行ったり、終了後に教室まで送っていったりしている。また、上級生が優しく声をかけながら、やり方を教えて清掃に取り組んでいる。

#### イ 特色ある学習（米作り）

毎年、学校で水田を借りて、全校児童で田植え・稲刈りに取り組んでいる。また高学年では、脱穀も行い、地域の交流センターに寄贈している。今年度の米作りも感染予防を徹底し、泥にまみれながら田植えをしたり、一人ずつ鎌を持って稲を刈ったりした。泥ではまっぴら出られない友達を助けたり、高学年が田植えの仕方や鎌の使い方を教えたりして、自然に相手を思いやることができた。

## 3 成果

- ・交流学习は、身近に色々な学校やお友達がいることを知るきっかけになった。また、環境などが違っていても、相手のことを考え、仲良くしたいという気持ちを育てることができた。
- ・「ありがとうの木」のメッセージを継続的に作成し、人権コーナーの活用を行った。思いやりについて考える機会が増え、友達のよいところや考えなどの理解が深まり、他尊意識を育てることができた。
- ・縦割り班活動や全校での活動・特色ある学習は、異学年同士で自然と会話や助け合いが生まれ、仲良く学校生活を送ったり、仲間意識を育てたりするのに大変効果的であった。

## II 今後の課題

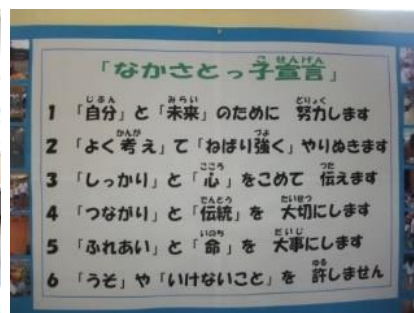
休み時間などに児童たちだけで王様とりなどのゲームを行った際、ルールを守れなかったり、自分勝手な行動をしたりする児童が見られた。さらに、そのことで嫌な思いをし、不満をもつ児童がいた。このことから、各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、ルールを守ることの大切さや、相手の立場になって考えることなど、みんながよりよく生活するためにはどうしたらよいか考える機会が必要であると感じた。また、学年によって成長が違うことを理解し、許容することの大切さも伝えていきたい。

## III 人権コーナーの設置の様子

「ありがとうの木」を顔写真と共に掲示した。全校児童の「人権メッセージ」も掲示し、今までの特支援学校との交流会や高齢者福祉施設での交流の写真などを掲示して、児童の啓発を図っている。各教室にも人権コーナーを設置して、自尊感情や他尊意識を高めるように努めている。



人権コーナー（人権メッセージ・ありがとうの木）



教室掲示（なかさとっ子宣言）